

# 軟弱そ菜の種類と作り方



大阪府立大学農学部  
附属農場主任 助教授

増井 貞雄

## はじめに

軟弱そ菜と呼ばれるそ菜の種類は多く、また、それぞれの地方における郷土の嗜好を反映した品目、種類がある。たとえば、長野県の野沢菜、関東地方のシュンギク、ハウレンソウ、コカブ、京阪神のミブ菜、ウグイス菜、カブ、葉ミツバ、中国地方の広島菜、九州地方の長崎ハクサイ、タカナなどである。

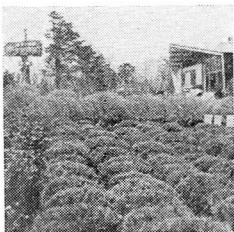
しかし、これら軟弱そ菜を通じていえることは、野菜のなかで最も鮮度が重んぜられる種類であるということである。したがって、従来は市場に近い近郊地帯のみに栽培されていたが、輸送機関、輸送方法の発達にともなって中間地帯や遠隔地帯にも栽培されるようになってきている。

また、軟弱そ菜は多く葉菜類であるので、技術を要しないように考えられがちであるが、商品として市況の高い時期に出荷するにはかなり高い技術と熟練度が必要で、とくに、カイワレダイコン、葉ミツバ、フキなどは技術を要するものである。さらに、軟弱そ菜は短期の作目が多く、しかも労働集約的で、価格の変動がはげしいという経営上の特性がある。

ここでは、代表的な軟弱そ菜の作り方について、露地栽培を主体に述べてみたい。

## ハウレン草

### (1) 作型と品種



雪印ガーデン植込場の一部

葉が濃緑で品質がよく、根ざわが紅色のものが市場で歓迎される。作型に応じて、耐暑性、抽苔性を考えて品種を選ばねばならない。作型と品種は表-1のごとくである。

### (2) 播種

早どり栽培で他の軟弱そ菜と輪作する場合は砂壤土の畑を選ぶが、水田輪換の秋まきでは土壌を選ばない、ただハウレン草は酸性に弱いので、1a当たり7~8kgの石灰を散布して土とよく混和しておく、1a当たり施肥量は堆肥150kgのほか、窒素3kg、リン酸1.5kg、カリ1.6kgが標準で、そのうち窒素とカリの半量、リン酸の全量を元肥に施し、残りを1~3回に分けて追肥とする。

砂土地帯では、うね幅90cmにして3~4条に1a当たり1.5ℓの種を播く。水田地帯ではうね幅80cmに2条か、160cmに4条の広幅に0.6~0.8ℓ種を播く。前者は早どりで、後者は株の生育をそろえ長期に収穫するため、うす播きの方が収穫・調製の労力が省けるからである。種子は1昼夜浸種して吸水させたものを、1日ぬれムシロに広げて催芽してから播く。夏まきでは、タチガレの予防にウスプルン1,000倍液に1時間浸漬し、水洗いのあと1昼夜浸種する。

播種後、うすく覆土してクワの腹ですって押える。砂土地帯ではイネワラを播き溝において、上から灌水する。

### (3) 播種後の管理

除草剤を用いる場合は、レンザーまたはシマジンを散布面積1a当たり10~15gを水10ℓにとかして播種直

## 牧草と園芸 6月号 目次

□雪印ガーデンの開設について	……表 2
□雪印ガーデンの取扱品目について	……表 3
■軟弱そ菜の種類と作り方	増井 貞雄……… 1
□除草剤アージランによる宿根性雑草駆除	小針 久典……… 7
□高位生産草地における草種構成比率の適正化技術	熊井 清雄……… 10
■鶏ふんの処理とその利用	矢島 潤……… 14

後に散布する。砂土の場合は5gくらいにしなないと薬害が出る。除草剤を用いた場合、灌水や中耕は20～30日くらい行なわない。

夏まきの場合、平坦地では寒冷紗のトンネルをするか、周囲を解放したハウスを利用する。砂土地帯では冬に4～5うねごとにワラの囲いをして寒風を防いでやる。追肥は発芽後1ヵ月後に施し、さらに草出来の状況を見て尿素2kg程度施す。施肥例は表-2のごとくである。春

表-1 ホウレン草の作型と品種

	播種期	収穫期	適用品種
秋まき	9上 ～9下	10中 ～12中	新日本、三笠(早どり用)、ニューアジア、くわしお、アジア
〃	10上 ～10下	12上 ～3下	
〃	11上 ～12下	3中 ～4中	ミンスターランド
春まき	2上 ～5下	4上 ～6下	ピロフレイ、ノーベル、バイキング、キングオブデンマーク
夏まき	7末 ～8下	8下 ～9下	平安日吉丸、弁慶、牛若丸、ぬくしな、東湖高城

表-2 ホウレン草(秋まき)の施肥例  
1a当たり

生育期間が短いので追肥2kgを水に溶かして灌水代りに施す程度でよい。	全量	元肥		追肥		成分
		kg	kg	1回	2回	
堆肥	150	150	—	—	—	—
苦土石灰	15	15	—	—	—	窒素 2.8 kg
乾燥鶏糞	20	10	10	—	—	リン酸 1.5 kg
溶成りん肥	3.5	3.5	—	—	—	カリ 0.83kg
塩化カリ	2	1	1	1	—	—
尿素	4	2	1	—	—	—

ホウレン草は湿害に弱いので、水田輪換作の場合、特に排水に注意する。病害としてはべト病の発生が多いが、肥切れさせないことがまず第一で、ダイセン水和剤400～500倍、ポリラムS400～800倍、ベシタ600～800倍を発生初期に散布する。

#### (4) 収穫出荷

手で抜いて枯れ葉を取り1束400gの束にしてワラで結束して水洗いする。輸送地帯では8kg入りダンボールケース(46.5×36.5×19.0cm)に20束入れて氷詰めにしている。夏の出荷では100gの小束にして、木箱(47×38×10cm)にしスロール紙を敷いて、30束入れ、氷詰して出荷する。近郊では収穫かごで出荷する。

## シュンギク

### (1) 作型と品種

地方によって好みがあり、「中大葉」または「大葉」が

表-3 シュンギクの作型と品種

	播種期	収穫期	適用品種	
2～3月まき	4月どり	2上～3上	4中～5上	株張り、大葉
4～5月まき	6月どり	4下～5下	6上～6下	
6～8月まき	7～9月どり	6上～8上	7上～9下	中大葉
8～9月まき	10～11月どり	8下～9下	10中～11中	中大葉、株張り、大葉
10月まき	12～1月どり	10中～10下	12下～1中	中大葉
11月まき	1～2月どり	11上～10下	1下～2中	〃
10月まき	2～3月どり	10中～11上	2上～3下	〃

表-4 シュンギクの施肥例 1a当たり

	元肥	追肥	成分
石 灰	20 kg	— kg	N 3.34kg
尿 素 複 合 リ ン 加 安 F 886	1	—	P 2.86kg
ワ ラ 灰	56	—	K 2.64kg
下 肥	300	—	—
綿 実 カ ス	—	6	—

用いられている。中大葉は葉が濃緑で欠刻が中程度で、葉肉がうすく質がやわらかで品質がよい。分岐性もよく6～8月まき、10月10日以後の播種に用いられる。中大葉の系統の内から選抜された「株張り」は分けつ性がよく収量が多いが、耐寒性、耐暑性が劣るので、2月上旬～5月上旬までと、9月上旬～10月上旬までの播種に用いられる。

大葉は葉が大きく欠刻が浅く分岐性の少ない品種であるが、耐暑性、耐寒性がないので、9月播き、2～3月播き、4～5月播きに用いられる。

シュンギクは周年栽培されるが、その作型は、表-3の如くである。

### (2) 播 種

前作が終りしだい1a当り20kgの石灰を散布しておき、基肥に鶏糞か配合肥料を全面に施す。耕運機で耕起



シュンギク畑

後、うねを立てるが、砂土地帯ではうね幅75cm砂壤土地帯では105cmに立てる。

高温期の8月と9月上旬まきは、地温が上らないように3条にワク幅に播く。9月中旬～10月中旬までは4条の条を切って播く。10月中旬以後は3条に条を切ってまく。

種は、1昼夜水に浸してから播く。秋まきでは1a当たり1.8lで、春まきでは厚まくとタンソ病が出やすいので、0.6lくらいのうす播きにする。播種後、クワの腹ですりこんで覆土し、古コモを被覆して上から灌水する。

### (3) 播種後の管理

発芽を始めたなら古コモを夕方に取り除いてやる。タンソ病の子防のために発芽ぞろいの頃に、ダイホルタンまたはダイセンの1,000倍液を散布し、以後5～7日おきくらいに3回くらい散布する。播種後15日ころに軽く中耕除草をして、条間に追肥を施す。施肥例は表-4の如くである。

2-3月播きでは播種後すぐポリのトンネルをかける。10月まきは12月上旬に西側のスノのあいたトンネルをかける。11月まきは12月上～下旬に、10月まきは12月下～1月上旬に寒冷紗(白)のトンネルをかける。2-3月まきは3月中ごろから10日間ほど外気にならしてトンネルを取り除く。その他は収穫までそのままにしておく。

6～8月まきは、高温期でタンソ病が出やすく作りにくい作型であるが、7～8月に寒冷紗をかけ、朝夕に井戸の水をうね間に灌水してやる。

病害虫としては、タンソ病が最も恐ろしく、ことに梅雨期に発生が多い。厚まきに出やすいので、春まきではすうまきをする。畑を清掃して、1作終る毎に棄てた葉や茎を残さないように集め焼却する。薬剤による防除は発芽そろいのころから3回くらいマンネブダイセンかダイホルタルの1,000倍液を散布する。ヨトウムシにはダイプレックス600～800倍、デス、エルサン、パプチオンの1,000倍液、アブラムシにはマラソン乳剤、エカチン、エストックスの1,000～1,500倍を散布する。

### (4) 収 穫

収穫は片手で引き抜いて100gの束になるようにし、ワラで結束して水洗いする。出荷は収穫カゴに入れて出す。ゴム輪で結束すると、荷姿が丸束になり、ワラの扁平束に比べ見劣りするが、能率は上がる。普通、根をつけてシユンギクを出荷するが、ナベもの専門の仲買人と契約出荷する場合は、株ぎわで刈り取って水洗いし、30kgの竹カゴにバラ詰めにして出荷する。

## ハネギ

### (1) 品種と作型

ハネギは白ネギと異り葉身が細長くてやわらかいものが喜ばれるので、分けつ性の強い「九条」が多く用いられる。

九条は種々の系統に分かれているが、最近「太系」より「細系」(浅黄)が、葉が淡緑色で短く細いので歓迎される。また、夏ネギ専用には、「九条」から選抜された「奴」が細く短く品質がよいので用いられている。ただし、奴は乾燥に弱いので、灌水設備のある畑で、十分灌水して作る必要がある。作型は表-5の如くであるが、3月まき、条どり栽培について述べることにする。

### (2) 育苗床の播種

育苗床は本田10aに対し2-2.5aを用意する。播種は3月中旬であるが、播種20日ほど前に熔リン30kgを施し、播種前に堆肥800kgを施す。うね幅は75cmの平うねにするが、ネダニ、ネギハモグリバエの発生の心配のある所では、ダインストンか、エカチンTD 500gを、溝を中心に散布して土とよく混和しておく、種は10a当たり5lを2条に散播してかるく覆土し、乾燥を防ぐために敷きワラをしておく。

### (3) 育苗床管理

発芽まで乾燥しないように注意し、発芽を始めたなら敷

表-5 ハネギの作型

	播種期	定植期	収穫期	適用品種
3月まき冬どり	3中	9中	11～2	九条細
4月まき冬どり	4中～5上	9中	11～2	〃
9月まき3～4月どり	9中	11下	3～4	〃
9～10月まき3～5月どり	9下～10下	(直播)	3～5	〃
1～2月まき6～7月どり	1～2	(直播)	5～7	〃
2月まき秋どり	2	6下～7中	8～10	〃
厚ネギ	3上～5中	4中～6中	6下～9下	奴

表-6 ハネギの施肥例 1a当たり

	元肥	追肥		成分
		1回	2回	
堆肥	240			
下肥	150		200	N3.65kg
油かす		6		P1.18kg
I B 化成(16. 10. 14)		4		K1.91kg
複合肥料(18. 5. 8)			4	



九条細ネギ

きワラを夕方に取り除く。苗が6—9cmのときに、密生部を間引いて1.5cm間隔にする。

4月上旬に除草して条間に追肥を施す。追肥は複合肥料など10kgほどを施すが、そのさいダイジストンかエカチンTD 500gを施す。さらに、5月中旬にも同様に施すとハモグリバエの防除が完全に出来る。

(4) 定植とその後の管理

本田は8月下旬に基肥を施しておき、うね幅85cmに立てて、9月上旬に定植する。年内収穫の予定のものはやや密植する。2条植えて、株間10cmに1株5—6本にしてうねの内側に倒して植える。年を越して1—2月収穫のものは、株間12cmとし、1株3本くらい植える。

定植後乾燥しないように灌水するが、活着するとしだいにネギが立ってくる。9月中旬と10月中旬に中耕除草をして追肥をする。

病害虫防除としては、ハモグリバエの防除に9月下旬にダイジストンかエカチンTDを10a当たり2kgやる。ボトリチス病、エキ病、ユクハン病が出るので、生育の初期にトリアジン400—600倍、ダイセン400—600倍を2—3回散布する。ネギは葉に薬剤が付きにくいので、必ず展着剤を加用する。

1—2月まで畑におく場合は、12月にもう1回追肥をし、3—4うね毎にワラ囲い(高さ1m)をしてやると寒風で傷められることが少ない。

(5) 収穫、出荷

収穫は手で引き抜いて土をはらい落とし、枯れ葉を削いて10—15本を1束にして束ね、根部を水洗いする。

近郊では、収穫カゴに入れて出荷するが、輸送地帯で8kg入りのポリの袋に入れ、ハイゼックスのひもで3か所くくって出荷する。ダンボールケースの場合は、10kg入りをうい、カラーテープで2か所くくって出荷する。

10a当たり4,500—5,000kgの収量が標準である。

アオミツバ

(1) 作型と品種

在来種を用いており、切りミツバほど抽苔に関し厳密に選抜されていない。早春に播いたものうち、葉柄が白いものを選抜して採種している。

作型は表7のごとくであるが、冬ミツバが需要が最も多く、夏ミツバは出荷が少ないので高値のことが多い。

(2) 畑の選定と播種

表-7 アオミツバの作型

	播種期	収穫期	適用品種
冬ミツバ	9下~10中	12中~3上	アオミツバ
秋ミツバ	8下~9中	10上~12上	〃
春ミツバ	2上~4下	4下~6下	〃
夏ミツバ	5上~7上	7上~9上	〃

表-8 アオミツバの施肥例

1a当たり			
	元肥	追肥	成分
紡績くず	kg 80	—	N 1.5kg
苦土石灰	10	—	P 0.77kg
下肥	50	—	K 0.33kg
綿実かす	—	12	

ツバは根つきで出荷されるから、抜き取りやすく、根の土の洗いやすい砂壤土の畑が適する。また、根が白く上がるためにも砂

壤土がよく、粘質土だと根が赤黒色になって、商品価値が落ちる。

ミツバは塩類の集積に弱いので、基肥・追肥ともに有機質肥料を用いた方がよい。基肥は成分にして1a当たり窒素1kg、リン酸0.5kg、カリ0.5kgくらいを施す。

うね幅は90cmとり、平うねにする。ミツバの種子は発芽抑制物質を含んでいるので、浸漬すると発芽がよくそろう。病害の予防のために水銀剤で消毒し、井戸水か水道水の中に布袋に入れた種を1—2昼夜浸漬する。浸漬した種は日陰で1昼夜うすくひろげておくと、さらっとする程度に乾く。

1a当たり秋まきでは1.6ℓの種をまくが、春まき、夏まきではやや少なく、春まきでは1.4ℓ、夏まきでは1.2ℓをまく、90cmのうねに4条の溝をつけてまくが、深さ1.5cmの溝を作条器を用いてつける。種まきは、深まきせず均一にまく。深まきすると発芽不良となり、発芽がそろわない。まき終わったらまき溝をクワの腹です

りこんで押える。覆土はしない。まき溝にイネワラ 5～6本を置いて、雨で種の流れるのを防いでやる。

### (3) 播種後の管理

ミツバの発芽温度は 8℃以上で、適温は 15～20℃である。秋まきでは約 7～10 日で発芽する。発芽がそろえば、敷きワラを取り除いて朝夕 2 回散水する。

種まき後 20～30 日、本葉 2～3 枚のところに追肥を条間に施す。その後は、葉色や作況に応じて、液体肥料を 1,000 倍くらいにうすめて灌水時に 2～3 回施す。

秋に播いた冬ミツバは、12 月上旬にコモおおいをかけて霜や寒風から守り、品質の低下を防いでやる。おおいに用いるコモは、日光の通る程度のうすゴモで、うねごとに日表は地上 1.1 m、日裏は 0.9 m の高さに設置する。

ミツバは連作すると、リゾクトニヤ菌やキンカク病、フザリウム菌などで立枯れが出るので、連作をさげ、被害葉は焼却する。生育中に発生するべト病にはダイセン水和剤 600 倍を、キンカク病にはスクレックス 1,000～1,500 倍を散布する。

### (4) 収穫、出荷

発芽後、秋まきは 90 日、春まきは 60 日、夏まきは 50 日で草丈 20 cm くらいになると収穫期になる。冬ミツバはおおいをする頃には一人前のミツバになっているが、冬の高値の時期まで畑で保存するために行なうのである

収穫は両手で 1 にぎりずついねいに引き抜き、洗い場の水の中で枯れ葉や土砂を洗い流してタケかごに積み上げる。つぎに 1 束 5～6 本で約 70 g になるように平たくゴムバンドで結束する。近郊では収穫カゴで野市に出すが、輸送地帯では 30 束入りのダンボールケースまたは木箱に入れて出荷する。1 a 当たり 250 kg の収量が標準である。

## パセリー

### (1) 作型と品種

従来の「パラマウント」は葉は濃緑でよく巻きこんでいるが、収量がやや少なく、夏の日焼けに弱い欠点がある。「チャンピオンモスカールド」は、葉は緑色でやや細く、葉数が多く生育旺盛であるが、夏はヤツデの葉のように開いた葉が多いのが欠点である。「サマーグリーン」は葉色濃く、よく縮み、生育旺盛で、夏はやや葉が

表-9 パセリーの作型

	播種期	収穫期	適用品種
春まき栽培	3 ～4 上	7 初～5 中	サマーグリーン
秋まき栽培	8 下～9 上	11 ～5 下	〃
6月まき栽培	6 中～6 下	8 中～5 下	〃

表-10 パセリーの施肥例 1 a 当たり

	元肥	追肥				成分
		1回	2回	3回	4～14回	
堆肥	200 kg	—	—	—	—	
苦土石灰	16	—	—	—	—	N 4.3kg
熔リン	3	—	—	—	—	P 3.35kg
鶏糞	15	3.3	3.3	3.3	—	K 3.3kg
化成(8.7.6)	20	3.3	3.3	3.3	—	
リン加安(18.8.16)	—	3.3	3.3	3.3	—	
液肥	—	—	—	—	5	

開くが、他品種に比べ耐暑性があるため色あざやかで持ちもちがよい。

パセリーは周年需要があるので、表-9 の三つの作型を組み合わせて栽培する必要がある。

### (2) 播種

耕土が深く、適温を保ち、肥沃であれば土質を選ばないが、耐水性がないので、排水のよい畑を選ぶ。

原則として直播きを行なうが、基肥は全面に散布して耕起し、うね幅 105 cm にとって高うねとする。1 a 当たり 8～10 dl の種を 2 条に条播きする。覆土はうすく行ない、乾燥を防ぐためと発芽を斉一にするために敷きワラを行なう。

### (3) 播種後の管理

播種後約 10 日に発芽するが、初期の生育がおそいので雑草に負けないようにする。除草剤を用いる場合は、除草剤プロバジン(ゲザミル)を 1 a 当たり 10 g、水 10 l にかして播種直後にやる。生育期間中に、さらに 1～2 回散布する。

発芽後 2～3 回の間引を行なって、株間を 12～15 cm にする。本葉 2～3 枚までに、欠株のところには密生したところから補植してやる。また、わき芽を残すと収穫のときに作業がしにくいので、発生すれば早目にかきとる。

春まき、秋まきは播種後 80～90 日、6 月まきは 60 日くらいで収穫期に入るが、追肥は 1 か月おきに 3 回条間に施す。収穫期に入ったら、もっぱら液体肥料(12.5.7)を夏は 500 倍、冬は 200 倍以上にうすめて灌水時に施す。12 月初旬から 3 月中旬まで、霜を防ぐために寒冷紗トンネルをかけ、厳寒期には、さらにその上にビニールをかける。

### (4) 収穫、出荷

本葉が 15 枚くらいになったら収穫を始めるが、夏は 12～13 日ごとの収穫が品質的にもよい。12～13 日おくと、葉が伸びすぎてくず物ができ能率が落ちる。

収穫のさいには、つぎの収穫のための再生産の葉を残

す必要があり、あまり摘みすぎて残り葉が少ないと、生育が劣え、収量が落ちる。ふつう、12～1月は展開葉6～7枚を残し、2月には5枚、3月以後になれば4枚以下にしてもよい。

収穫した葉は40gの小束にし、ゴム輪で結束し、よく洗って水切りしてから石油箱に50束詰め、正味2kg以上にして出荷する。

## カイワレダイコン

### (1) 品種と作型

市場では軸が白く上がり、件びのよいものが歓迎されるが、栽培面からは病害に強く、収穫期に幅のあるものが便利である。

「大阪四十日」は、軸が細く収量は上がらないが、伸びがよく白くさえる。また、雨で倒れやすく、収穫期の幅が短い欠点がある。春から梅雨までと秋にこの品種を用いる。「本床返り」は、軸が太く、双葉が大きく、収量が多いが、軸がやや青く、色がつく欠点がある。収穫期間に幅があり、出荷調整がしやすい利点があり、病害にも強いので、7月以後の栽培に用いる。カイワレダイコンの生育適温は25°C前後で、15°C以下では生育がおそく、本葉が早く出たて商品にならないので、春4月から秋10月までが播種期で、その間を三つの作型に分けてみると表-9のようになり、夏は8日、早春、晩秋は14～15日で1作が収穫できる短期そ菜である。

### (2) 畑と播種

表-11 カイワレダイコンの作型

	播種期	栽培日数	適用品種
春まき	4～5上	18～15日	大阪四十日
夏まき	5中～8下	14～8日	大阪四十日本床返り
秋まき	9上～10上	8～14日	〃



カイワレダイコン 左寒冷紗を覆ってある  
右収穫前

軽い砂土か砂壤土で、排水のよい所でないと栽培に向かない。種まきの30日前に1a当たり乾燥鶏糞のよく砕いたもの75kgかダイホスカ2kgを、コンポスト100kgとともに全面散布して土とよく混和しておく。種まき前に腐熟下肥40kgを5倍にうすめて、まき溝に施すか、硫酸1kgを水にうすめて施す。

うね幅は80～90cmに立て、4～5条、深さ3cmの溝に種をまく。種はウスプルンで10～15分消毒するが、さらに布袋に入れた種を4～5時間冷水に浸漬して浮いた種を取り除く。浸漬後、発芽をそろえるため、ムシロに種を広げて日陰の涼しい場所におき芽を切らしてから播く。3.3cm当たり5.4～6.3dlの割でまくが、種まき後、クワですりこんで、さらに覆土を完全にする。夏は寒冷紗を被覆して上から灌水する。春まきでは、ナン地のビニールをかけ、夏まき、秋まきでは寒冷紗トンネルをかけて雨よけと日よけをかねることがある。

### (3) 播種後の管理

発芽がそろいかけると寒冷紗をとり、子葉が半開きのころに子葉の下まで条間の土を寄せる。この土寄せによって軸が白く上がる。また、灌水は朝夕2～3回行なうが、少量ずつ回数が多いほうがよく、軸が倒れないように細かいジョロで行なう。

病害虫防除としては、ケラ、キスジノミハムシには播種前にヘプタクロール粉剤(1a当たり200～600g)を土に散布して混和しておく。アブラムシ、シンクイムシにはDDVP乳剤1,000倍を散布する。また、降雨のとき葉が土砂のはねかえりでよごれるとべト病が出るので、ダイセン水和剤600倍で洗い流すように消毒する。高温期に発生の多いフハイ病、タチガレ病は、土壌消毒をするか、連作をさけるしか方法がない。

### (4) 収穫、出荷

収穫の適期は双葉が完全に緑化した本葉発生前で、郊外市場向きには草丈15cm、中央市場向けには10cmくらいで収穫される。

収穫はうねの片側から一にぎらずついでにそろえて抜き取り、砂を落として、1束20～30g程度にしてゴムバンドで束ねる種皮やゴミなどの夾雑物を除き水洗いして出荷する。

(弊社取締役営業第一部長故門間慈) 社葬に際しましては御多用中遠路のところをわざわざ御会葬を戴き、御丁重なる御弔詞並びに過分なる御香料御供物を賜わり御芳情誠に有難く深謝に堪えません。御蔭様にて葬儀萬端滞りなく相済ませました。

取り敢えず略儀乍ら御礼の御挨拶を申し上げます。